

# 泊まりたくなる犬山に

## 観光振興 名鉄・高崎社長が講演

名古屋鉄道の高崎裕樹社長（左）が犬山の観光まちづくり戦略について語る講演会が二十四日、犬山市のホテルインディゴ犬山有楽苑であった。市内のリトルワールドで五年間勤務し、社内で犬山エリアの観光事業戦略を立ち上げるなど「犬山への思いはひとしお」と述べ、熱い思いを語った。

まず観光地を訪れる人は「そこにある独自の光、ローカルなものに価値を求めている」と主張。犬山にも写真映えする商品を扱う店が多くあることを念頭に、「交流サイト（SNS）は大事なツールだが、『映え』ばかり追つと

薄っぺらくなってしまふ」「犬山観光にしかできないことを生かす。他ではやっているから、というのはできるだけ避けるべきではないか」と提言した。

自身が観光まちづくりの参考にしている都市には金沢市を挙げた。観光エリアが中心地に集まっているが、一日では回りきれず「また来よう」と思わせる点が絶妙という。

一方犬山は、犬山城から本町通りを南下、左折して犬山駅に向かう「L字形」ルートしかなく、日帰り型の観光地になっていないと指摘。名鉄犬山線の新鵜沼、犬山遊園、犬山口の各駅からもアクセスできると広がりが出るとした。

さらに滞在型の観光地にするためには「複数の観光の目玉、観光に二日以上かかること、夜を楽しめる材料があること、泊まりたくなる施設があること」などが必要だと述べた。

講演会は犬山市、犬山商工会議所、名古屋経済大が共催し、百二十人が耳を傾けた。

（水越直哉）

「犬山をオーセンティックな

（本物の）観光文化都市に」

と語る高崎社長＝犬山市内で

